日刊動力千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）
電話 （鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

1989.3.20 No.2998

3.26三里塚決起で

当局を圧倒しよう！

これが戦時体制だ

「土地収用権限の強化」

戦時強制疎開での家屋の取り壊し
（1944年　東京）

日刊動労千葉二九九五号でも明らかにしたように、〝新生動労千葉〟の十年は、〝三里塚とともに十年〟と置き換えても何ら不自然ではない。

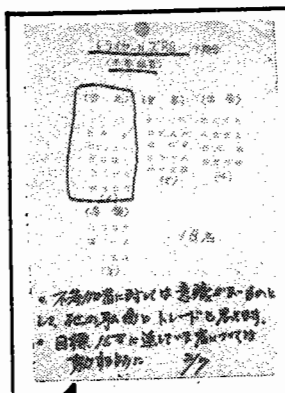
分離・独立した要因も三里塚であったし、また動労千葉が動労千葉として、その名を全国たらしめたのも三里塚のジェット燃料貨車輸送阻止闘争＝八一・三ストであった。我田引水的に三里塚を語るわけではないが、動労千葉にとって三里塚とは我血であり、我肉である。ある意味では空気と同じ存在でもある。空気にはふだんあまり価値＝ありがたみがわかないが、失なわれるとその存在価値・意義を認識するものである。

敵（当局・鉄道労連・権力）にとって「三里塚と一線を画した」動労千葉なんて、取るに足らない存在に他ならないであろう、動労千葉が動労千葉として幾数百倍の敵を相手にまわして闘っていられるのも、三里塚を基軸にすえた原則的な闘いを貫徹しているからである、三里塚を闘う力＝三里塚に結集する力に敵は圧倒されているのだ。

十周年を迎えるにあたり、新たな十年にむけての門出の闘いとして、決意として三・二六三里塚に総結集していこうではないか。

三里塚現地は今、強制代執行をめぐって反対同盟と政府・公団との熾烈な攻防戦がくりひろげられている。九〇年度二期完成プランを破産させられた公団は、あせりにか圧倒されているのだ。だから敵は常に「動労千葉が何人、三里塚に参加するのか」を気にしているし、動労千葉の団結力のバロメーターとして見ている。

千葉駅当局は、不当労働行為をやめろ！



二月七日、千葉駅当局は突然、改札班の掲示板に「トライセールス88（時間外無償増収活動）不参加者」なる表題の掲示を貼り出し、無償労働に反対し闘っている動労千葉をはじめとする労働者の名前をのせ、しかもその下に赤マジックで「不参加者に対しては意識がないものとして他の職場とトレードを考えます」とおどし文を付け加えているのである。

また、最近国労組合員が黄色の蛍光ペンを揃えて付いていることに対し、「見苦しい」とイチャモンをつけているのだ。

こんな不当労働行為があるだろうか！　労働契約もしていない無償労働を理由に配転をちらつかせるなど言語道断である。違法行為と知りながら堂々と掲示にまで貼り出す。これが千葉駅当局の本質だ。直ちに謝罪しろ！

千葉駅に出された掲示

動労千葉

結成十周年

三里塚と共に、血を流し、涙を流し、そして勝利した十年！

3・26 三里塚

3.29	(土) 4.15
清算事業団地労委 ◎十四時　◎千葉地労委	動労千葉結成十周年記念レセプション ◎十三時　◎千葉県労働者福祉センター

国鉄「分割・民営化」体制粉砕！鉄道労連解体をかちとろう！